

歩道を走る自転車・事故の心理学（１）

著者	吉田 信彌
雑誌名	聖教新聞
発行年	2006-11-23
URL	http://id.nii.ac.jp/1204/00000480/

事故の心理学

(1)

吉田信彌

年末が近づくと、何かとあわただしくなり、事故に遭うケースも増えてきます。人間の心理からみた事故について、東北学院大学の吉田信彌教授に、注意点をまとめてもらいます。

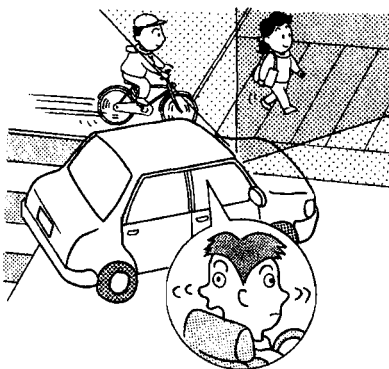
◇ 事故の原因となるエラー(間違い)には2種類あります。一つは、どう振る舞うべきかが分かっていたはずなのに、その通りに実行できなかったエラーです。「分かってはいたけど、うっかりし

た」という間違いです。例えば、陰から子供が飛び出すかもしれない道だと分かっているのに、ついアクセルをふかしてしまふようなケースです。

もう一つは、どう振る舞うべきかが分かっていたにもかかわらずに起きたエラーです。どういう意図をもって行動してよいのか、その知識と戦略が欠けていたための間違いです。本当は何も分かっていたが、と反省せざるをえないエラーです。

この連載で取り上げる

歩道を走る自転車



のは、第2の「知識不足」です。今回、特に訴えたいのは「横断歩道を自転車が行き交う」というケースです。歩道は歩行者だけの通行するとは限らないのです。歩道を自転車が行き交うのは、第2の「知識不足」です。

結果、待ちうけるのが図のような事故です。乗用車が左折しようとして、自転車と横断歩道上で衝突する事故です。通常、運転者は横断歩道に駆け込んでくる歩行者に注意しています。歩行

自転車が行き交うのは78年以前に免許を取った人は、歩道を渡るのは歩行者と思って教習所を卒業しました。それ故、歩道を見るだけでなく、首を大きく回す「直接目視」が必須となったのは、78年12月以降です。それ以前は「甘かった」のです。だから、50代のベテランは借金がなくとも、首が回らないと言えるのです。

車事故は多いです。ベテランには、今まで事故に遭わなかったという成功体験があります。しかし、それは横断歩道に猛スピードで入る自転車に遭遇しなかったにすぎません。その幸運の積み重ねを自分の技量と過信すると、痛いしっぺ返しがかかるでしょう。道路情勢の変化に心づいて、つねに自分の運転のリニューアルを心がけるのが真のベテランと言えるでしょう。

右左折時、首を回し広く確認

る人もいるくらいです。そのおかげで、自動車が左折時に自転車を巻き込む死亡事故は減りました。

たはずで、加えて、そのころに免許を取ったベテランは、首が回りません。なぜかという、教習段階で首を回す訓練をするときのほうが対自転車

(東北学院大学教授)

しかし、自転車が行き交う歩道を走る。歩道の切れたところに横断歩道がある。自転車はそこもスピードを出して通行する。その

よしだ・しんや 1951年、仙台市生まれ。東北学院大学講師、同助教授を経て現職。専門は交通心理学。事故を引き

新書)がある。